

ちびっこ
ギャラリー



吉野幼稚園のみんな、
秋にやきいもをしたのを
思い出して
新聞紙でおいもをつくりました。
つみきのがまごの中にも
みんなごつくったおちほこ
おいもがいっぱいだよ！

俳句
ことぶき俳句会

ミニトマト冬の窓辺に色づきぬ
物産展友の出店の栗まんじゅう
一年の食器を磨く年の暮
風の音寒し一人の夕厨
暖冬や残り二枚のカレンダー
神のこと文に書き添え夜長かな
日向ぼこのんびり郵便バイク来る
煮返しの大根テレビに船通る

大山さよ子
越坂 順子
徳地はつ子
福澤 米子
福原 仁子
橋本 葉子
宮部あき子
高橋 悦子

川柳
浦幌川柳会

町長出題 命
ふりがなが無いと読めない命名紙
忘却を抱いて余命の橋渡る
明日へむけ喜怒哀楽の命綱
罪ふかき幼なき命うばう母
笑いすぎ命も夢も満点だ
息ぬいて一度の命父母の愛
運命の心の濁りは初春に聴く

山村 幹雄
白木二十重
竹村 鮮明
星 愛子
加藤 未貴
橋本 葉子
阿部 麗紅

短歌
浦幌短歌会

みんなの
芸

六日間禁食しても点滴は気力体力おとろえぬ不思議
赤あかと彩づきし葉のやさしさよブルベリーは実らずとも
霜の予報外れて今日は文化の日菊のとりどり一束にして
菊を残しダリア一度に終りたり四季ある生の贅を思はむ
秋日和昨日の強風おさまりて心静かに報恩講へ
玉葱をオニオン・大蒜をガーリックいまさら呼べぬ戦中派のわれ
日だまりの窓辺に並ぶ植木鉢青々として小さき蕾
まちがいの電話かわれを子と思い胸つまらせて泣きつづけ切る
マフラーに襟元包み足早に何時もの時刻すれちがう人

米司 好美
山崎 阿己
福澤 米子
山口 恵子
後藤 年子
高橋 悦子
星 愛子
柴田 弘子
長谷川アキ

川柳
上浦幌句の会

自由吟
紅葉も美の無きままに秋深み
暴風雨去りて静かな明日あり
あの暑さ忘れた様に秋風吹く
お悔やみ覧知人の名を見て手を合わせ
イエスマン俄かチルドレンノーサンキュウ
広い宇宙リストラされる星ひとつ
紅葉に疲れを癒す露天風呂
八面鏡トイレの中で立ち往生

朝日ヒロエ
笹島カヨ子
河村みよ子
山田 ナツ
大西 功
山田エツ子
福田すま子
芳川 乙美

INFORMATION

人のうごき

平成 18 年 11 月 30 日現在

- 人口 / 6,197 人 (- 18 人)
男 / 2,991 人 (- 8 人)
女 / 3,206 人 (- 10 人)
- 世帯数 / 2,506 戸 (- 3)
- 出生 2 人 ○転入 13 人
- 死亡 7 人 ○転出 26 人
- ※ 1 年前の人口 6,378 人
()内は前月比

交通事故発生状況

平成 18 年 11 月 30 日現在

- 発生 18 件 (前年比 + 4 件)
- 死者 2 人 (前年比 - 1 人)
- 傷者 29 人 (前年比 + 14 人)
- 事故死者ゼロ日数 88 日

消費生活相談

平成 19 年 1 月

浦幌消費者協会では悪質商法など、消費生活にかかわることについての相談を実施しています。

- 9 日(火)・23 日(火)
- 10 時 ~ 12 時、13 時 ~ 15 時
- 浦幌中央公民館
- 1 階小会議室(内 750)

日曜救急当番医院

平成 19 年 1 月

診療時間は 10 時から 16 時までです。急患に限ります。

- 7 日、21 日
多田医院
- 14 日、28 日
町立診療所

※ 12 月号に 12 月 31 日の当番医は町立診療所と掲載しましたが、年末の休暇に入るため当番医はありません。お詫びして訂正します。

COLUMN

あるお父さんを知っています。笑顔のとっても素敵な人です。その人はいわゆる企業戦士。家庭も顧みず一生懸命働いていたある日、突然、娘が自殺しました。中学 2 年生の娘さんは、実は、ずっと学校でのいじめに悩んでいたのですが、仕事の忙しかったお父さんは、そんなこと、まったく気付かなかったのです。その日から、お父さんの人生は一変しました。

せめて今からでも、娘のことを知りたい、わかっただけでもいい。そんな思いから「クラスメートが娘の死に寄せて書いた作文を見せてほしい」と、お父さんは学校にお願いしました。しかし、学校はかたくなにこの申し出を拒み(おそらくいじめを隠すため)、子どもたちには緘口令がしかれ、お父さんは、お母さんと二人で、情報公開を求める、長い法廷闘争へと歩むしかありませんでした。※

子育てコラム

先生と一緒に、学校を楽しい場所にしたい、いじめなんてしたくなくなるくらい、楽しく過ごせる場所に……

の、一流企業の出世コースからは外れ、職場や地域の「学校を訴えるなんて」という陰口や、冷たい司法の壁に、ずいぶん苦しみながらの毎日だったそうです。

結局、長い時を経て、ご夫婦に本当のことを教えてくれたのは、当時の同級生たちでした。

お父さんは言います。自分だって、娘の死に直面しなければ、中学校教育のことなど考えなかつたかもしれない、「学校を訴えるなんて」と異端を排除する側にまわっていたかもしれない、と……。

この娘さんの自殺は、1991 年のことでした。…悲しいことに、16 年経った今でも、学校でのいじめは一向

男だって子育て!?

その④ 男だっていじめ防止

1988 年立教大学卒。雑誌記者を経て結婚。3 人の子どもを育てながら子育て支援を独学。カナダ・ライオンズ大学レイモンド・チャン・スクール家庭支援職資格認定課程を通信教育で修了。2003 年より日本で最初 & 唯一のファミリーライフエドゥケーターとして活動中。

■ホームページ <http://homepage3.nifty.com/mami-file/index.htm>

columnist

林 真未 (はやし・まみ)



に改善されていません。誰かが死んでからでは遅すぎる。今、お父さんは、娘の死を無駄にしないため、ライフワークとして教育の問題に取り組み続けています。

戦前、学校との交渉は、全て父親の役目だったといえます。家長として君臨する代わり、子どもの教育や進路に全面的に責任を持っていたというわけですね。

現代のお父さん達も、これに倣って、どんどん学校に足を運びませんか? そして、学校を監視したり責めたりするのではなく、先生と一緒に、中学校を楽しい場所にしたい、いじめなんてしたくなくなるくらい、楽しく過ごせる場所に!

そうすれば、悲劇は繰り返されなくてもいいですね。

※詳しくは……前田功・千恵子 著「学校の壁」教育史料出版会